

三条別院のご案内

真宗大谷派三条別院

TEL : 0256-330007

E-mail : sanjohokusan@winj.com.nipj



▲八日結願日中、登高座して式文・嘆徳文を拝読する
信教院殿。微音で読まれるため、堂内は静まり、内陣
出仕者も厳粛に拝聴する。

三条別院お取り越し報恩講が十一月五日のお待ち受け音楽法要を皮切りに厳修され、八日結願日中をもつて円成しました。崇敬区内各組からの団体参拝も再開し、高田エリアからの参拝もあり、賑やかな報恩講が戻ってくる兆しが見えて参りました。本年五月に新型コロナウイルス感染症の分類が五類に引き下げられ、報恩講実行委

お取り越し報恩講厳修

二年ぶりに人数制限なし、団体参拝も多数で賑わい戻る

員会全体会も二年ぶりに開催され、お取り越しをお迎えする準備を整えて参りました。

本年は感染症対策をしながらも人数制限は行わないという方針でした。昨年に引き続き、六日初日中から信教院鍵役に御参修いただきました。(随行は坂合堂衆)。三条声明会を中心とした助音方、三条雅浄会、高田雅遊会、内陣・余間には教区内寺院方、式支配・掛役、報恩講スタッフとして、坊守会、推進員の皆さん、別院有志の会、女性研修会、青少年部門、立花スタッフ、音楽法要助声、合唱団他多くの方々にお

力添えいただきました。かつて参詣者が少なかった頃、実行委員会でスタッフを集めて、スタッフがそのまま参詣者を兼ねたということがあります。今では参詣者も増えてきましたが、本当に大勢のスタッフと共に、一人一人が親鸞聖人と真向かいになり、お取り越しを円成することができました。崇敬区内寺院・御門徒の皆さまに御礼申し上げます。

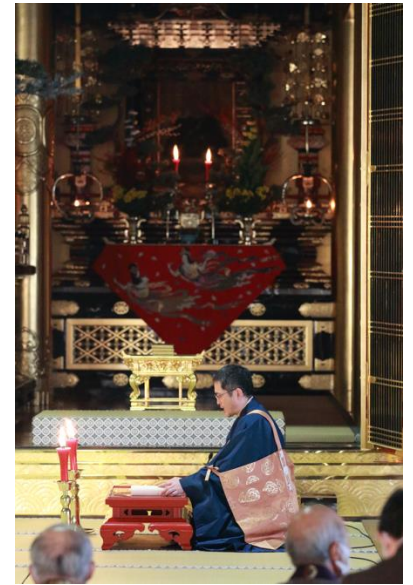
お取り越しの様子的一端を、紙幅の都合上、記録写真をもつてお伝えいたします。



【6日・7日講師青木玲氏】



【3昼夜4日間の法要が勤められた】



【5日は藤懿輪番が『御伝鈔』上巻を拝読、5・6日は井野優介氏（三河すーぱー絵解き座座員）が御絵伝の絵解き法話】



【6日『御伝鈔』下巻を拝読する中富正純氏（第23組福照寺）】



【三条声明会を中心とした助音】



【晨朝法話講師 6日白鳥直来氏（第15組本龍寺）、7日朝倉安都子氏（第20組金寶寺）、8日塚本智秀氏（第18組等運寺）】



【帰敬式 (6日、7日)】



【6日シアターサンジョーゴボー「よだかの星」 僧侶エキストラ12名】



【夜の境内】



【お待ち受け音楽法要は従来「女声助音」で勤めてきたが今年から男女混声に】



【中尊前】



【朝食に配布されたパン】

皆様のお力添えによってお取り越し報恩講が無事に円
成いたしましたことを御礼申し上げます。写真は報恩
講実行委員会教化部会の多田修氏から撮影していただ
きました。紙幅の都合で紹介しきれませんので、ホー
ムページに順次アップしていきます。
なお、事後となりますが、教区内全寺院(部教の都合
で寺院のみ)にお取り越し報恩講のパンフレットを各
寺院に一部配布させていただきます。実行委員会で作
成した冊子ですので、ぜひ一読ください。



【結讃は廣川和宏氏が繰上调声】



【伽陀を発声する坂谷堂衆】

三条別院に想う

▲今回は新潟教区推進員連絡協議会会長の小嶋氏に執筆していただきました。

一〇二三年七月、義姉から、「父が推進員養成講座で二泊三日の研修を受けに京都に行く、坊守さんから腰が四十五度程に曲がり、歩行も覚束ない父を心配し、貴女が付き添いでいけないなら、私が行くしかない」と言われ自分も仕事があるし、何とかならないかと相談されました。当時義父は八十七歳今でいう後期高齢者米寿を迎えるお年寄り、何故その年で研修を受け京都まで行くのか、その訳を知りたくて自分が付き添っていくことにしました。

義父が時折話す第二次世界大戦と死生観、語る仏教に違和感を抱いていました。

六十歳定年で退職するまで消防署に勤務、非日常現場での作業に従事し、人の生死に関わって来ましたので、仏教とは何ぞや、仏教で人が救えるのか、そんな思いで、聴講生として義父と本山で机を並べ学びました。

一〇二五年手次寺の住職から、真宗講座の受講を薦められ先回聴講生として受講したものが消化不良であるため受講しました。その後真宗講座のスタッフとして加わるようになり、三条別院を訪れる機会も多くなりました。

春秋の奉仕研修等、そこで各組の皆様から多くのことを学んだと思います。「人は煩惱の塊

何処まで行っても凡夫、分かったようでもわかっていない、仏法は毛穴からでも入ると言われているから別院で行事があるときは、積極的に参加するように」と諭されました。

一〇二三年三条別院お取り越し報恩講では、諸殿拝観の説明役を強いらられ、浅学菲才の身を思い知らされました。本山の明治における再建については時折お話を伺うことがあるのですが、明治四十一年に再建された三条別院再建について今後お聞きする機会を得たいと思うところがあります。

三条別院でのおみがき奉仕団として初めて参加した際の、苦くも懐かしい思い出があります。先輩諸氏に負けまいと、中途半端なお磨きで洗い場に仏具を持参したところ、「磨きが足りないやりに直し」その後懇切丁寧に指導していただいた、米山裕子様が十月末浄土に還られました。お世話になりました、心から哀悼の意を表します。

合掌

小嶋 勇司氏

(第十組光圓寺門徒、新潟教区推進員連絡協議会会長)

○次回の「三条別院に想う」は、

安原 彰 子氏

(中越十二組安浄寺、新潟教区坊守会長)

よりご執筆いただきます。

御煤払い・除夜の鐘・修正会のご案内

当別院では毎年十二月に、一年で溜まった埃を払う「御煤払い奉仕団」を開催しております。どなたでもご参加いただけます。御本尊、宗祖真向の御影(まむきのごえい)の御煤払いの後皆さんで内陣を清掃する、一年に一度の恒例行事ですので、ぜひご参加ください。

御煤払い奉仕団

◇日時 十二月十日(日)

午前九時より正午まで

◇場所 三条別院本堂

◇持ち物 勤行集、念珠

◇法話 **滋野 憲史氏(第六組善念寺)**

◇締切 十二月八日(金)までに当別院までご連絡ください。

◇冥加金 五百円(お弁当を)用意します)

除夜の鐘

◇日時 十二月三十一日(日)

午後十一時四十五分より

◇場所 三条別院鐘楼堂

◇受付 三条別院旧御堂

修正会

◇日時 二〇二四年一月一日(月)

深夜零時より

◇場所 三条別院本堂・旧御堂

◇お勤め後、輪番による新年の挨拶

定例法話会の「案内」

毎月十三日の闍如上人のご命日にあわせて定例法話会を開催しております。

◆十月から十二月の講師

中山善雄氏

(第十四組寶國寺、元教学研究研究所研究員)



◆日時 十月十三日(金)(済)

十一月十三日(月)(済)

十二月十三日(水)

いずれも午後二時三十分〜午後二時三十分

◆会場 三条別院旧御堂

◆講題 「女人成仏と変成男子」

▲「たとい我、仏を得んに、十方無量不可思議の諸仏世界に、それ女人あつて、我が名字を聞きて、歡喜信樂し、菩提心を発して、女身を厭悪せん。寿終わりての後、また女像とならば、正覚を取らじ。」(『仏說無量壽經』卷上、『真宗聖典』二二頁)。阿弥陀如来は仏と成るために四十

八の願いを誓われた。これを本願と呼びます。そのうち三十五番目の願いが右にある文章です。この願文は「女性差別」ではないのかと言われ、長年問題視されてきました。なぜ三十五願が誓われなければならないのか。そのころは何か。教学研究研究所研究員であった中山善雄氏に、全三回でお話いただきます。

宗祖御命日のつどい

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に「御命日のつどい」を本堂にて、日中法要と法話、その後座談会の場を開いております。

どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日(二十七日)はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

◆日時 十二月二十八日(木) 午前十時より

◆会場 三条別院 本堂

◆お勤め(御命日 日中法要)

文類偈 行四句目下

念仏讚 淘五

和讚 回口 次第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

橋出氏(第十八組久唱寺)

(一帖目第四通 「自問自答」)

▲『御文』一帖目をテーマにしております。

▲十時半から十一時半まで法話。その後座談会を設けております。講師を囲んで語り合います。

◆今後の講師一覧は次号お知らせします

改観寺雑巾講報告



十月二十日(金)、十九組改観寺雑巾講の雑巾贈呈式が行われました。

ご門徒の皆様から一生懸命縫って頂いた雑巾百六十枚は、これから日々の清掃だけでなく、各行事(煤払い・おみがき等)で大切にに使わせていただきます。

また、当日はご門徒二十名も贈呈式にご参加、参詣をしていただきました。改観寺様で行われる雑巾講(雑巾を縫う会)には、また参加させていただきたいと思っておりますし、この縁を大事に後世につないでいけるようお願いしております。

有志の会庭講報告

報恩講が終わり急に冷え込み始めた十三日。庭講による三回目の冬囲い作業をおこないました。今年は雪がどれだけ降るかわかりませんが、藤棚の雪対策も含めて降雪前には冬囲いを完了する予定です。

フードバンクを継続中

十一月の別院でのフードドライブにご協力いただいた御寺院・御門徒―

佐渡組専得寺、第十五組専照寺

その他、匿名含め多くの方々にご協力いただき御礼申し上げます。次回引き取り予定日は十二月二十五日(月)です。

その他の講座案内

○別院声明教室

昼の部(午後三時～五時)

講師 別院列座

夜の部(午後六時～八時)

講師 橋 宗真氏(第二十組頭了寺)

開催日 八月二十一日(月)(済)

九月十一日(月)(済)・十月十日(火)(済)

十一月十四日(火)(済)・

十二月十一日(月)(全五回)



○別院書道教室(東友会)

【毎月第二、第四水曜日 午後六時三十分～八時】

講師 木原光威氏(新潟県書道協会理事)

月謝 三,二〇〇円(テキスト代含む)

随時募集中

○別院奉仕研修について

【奉仕研修冥加金】

一人あたり半日(午前または午後 五百円、一日千円)

一泊二日は上記の冥加金に順じて半日五百円で計算する。

【その他実費でいただくもの】

①講師謝礼。なお、列座によるお内仏のお給仕・法話は研修冥加金に含まれる。②シーツ等クリーニング代千円

○団体参拝及び諸殿拝観について

列座が諸殿拝観などを行います。日程等お気軽にご相談ください。

◆◆編集後記◆◆

三条別院お取り越し報恩講が皆様のお力添えで無事に円成いたしましたこと、誠にありがとうございますございました。新潟教区となり初めての報恩講でしたが、高田エリアのご寺院様にも内陣出仕とご参詣をいただき、新たな風を感じる報恩講でした。

報恩講は自身の心を確認する場ではありますが、いつも報恩講が終わるまでは忙しさに振り回されている身としては、本年こそじっくりと自身の心を見つめ直すことができるよう余裕をもって臨みたいと考えておりましたが、例年のごとく(例年以上に?)多忙な中で中々余裕を持てなかつたと感じています。報恩講期間中を思い返して、今になって色々と考えている次第です

が、最も印象に残った出来事をお話させていただきたいと思えます。

実は、別院報恩講の直前の十月三十日に、別院のお預かり門徒がお亡くなりになり、十一月の報恩講直前に別院としてご葬儀を勤めさせていただきました。その方は昨年の別院報恩講にて信教院殿とお話をする機会があり、ご自分が先が長くない病気であること、もし来年(二〇二三年)の報恩講にお参りすることができたら、そのときは三条の有名メーカー諏訪田製作所の爪切りをプレゼントするお約束をされていたそうです。そのことを聞き覚えていた、ある坊守様がその方が報恩講直前にお亡くなりになったこと、またお渡しするための爪切りをご用意していて、代わりにご自身がお持ちしたことを信教院殿にお伝えされました。信教院殿は言葉を失って、しばらくお考えになった後に親族の方とお話がしたいと申されました。当日にスタッフとして参加をされていたご家族としばらくお話をされて、その後色々と考えていらしたと思うのですが、結願日中法要が終わりお帰りの際、ご親族のご住所を教えてくださいました。私におっしゃいました。

これから十一月の二十日の事前準備より御正忌の参衆加勢のため本山に参勤いたします。別院の報恩講では忙しさに振り回されておりましたが、じっくりと自身の心を見つめ直して来たいと思っております。

(松浦)